

2023年（令和5年）貯蓄・負債の概要

貯蓄の状況

1 概況	1
（1）貯蓄現在高は1904万円で5年連続の増加	1
（2）貯蓄現在高が平均値（1904万円）を下回る世帯が約3分の2を占める	3
2 貯蓄の種類別内訳	4
通貨性預貯金は15年連続の増加	4

負債の状況

1 概況	6
負債現在高は655万円で前年に比べ13.7%の増加	6
2 負債の種類別内訳	9
住宅・土地のための負債は601万円で前年に比べ14.3%の増加	9

世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況

1 世帯主の年齢階級別	10
（1）世帯主が50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回る	10
（2）負債保有世帯のうち負債超過額が最も多いのは世帯主が40歳未満の世帯	12
2 年間収入五分位階級別	14
（1）負債現在高は年間収入が高くなるに従って多い	14
（2）勤労者世帯の貯蓄現在高は年間収入が高くなるに従って多い	16
3 貯蓄現在高五分位階級別	18
貯蓄現在高が最も多い第 階級の世帯の有価証券の割合は約2割	18
4 持家世帯（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）	20
持家世帯のうち住宅ローン返済世帯の負債現在高は1967万円	20
5 世帯主が65歳以上の世帯	22
（1）世帯主が65歳以上の世帯では貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が約3分の1を占める	22
（2）世帯主が65歳以上の無職世帯の有価証券は480万円で前年に比べ20.0%の増加	23

参 考

<参考1 - 1> 長期時系列（二人以上の世帯の貯蓄の推移）	25
<参考1 - 2> 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）	26
<参考2> 2023年の貯蓄・負債をめぐる主な動き	27

貯蓄の状況

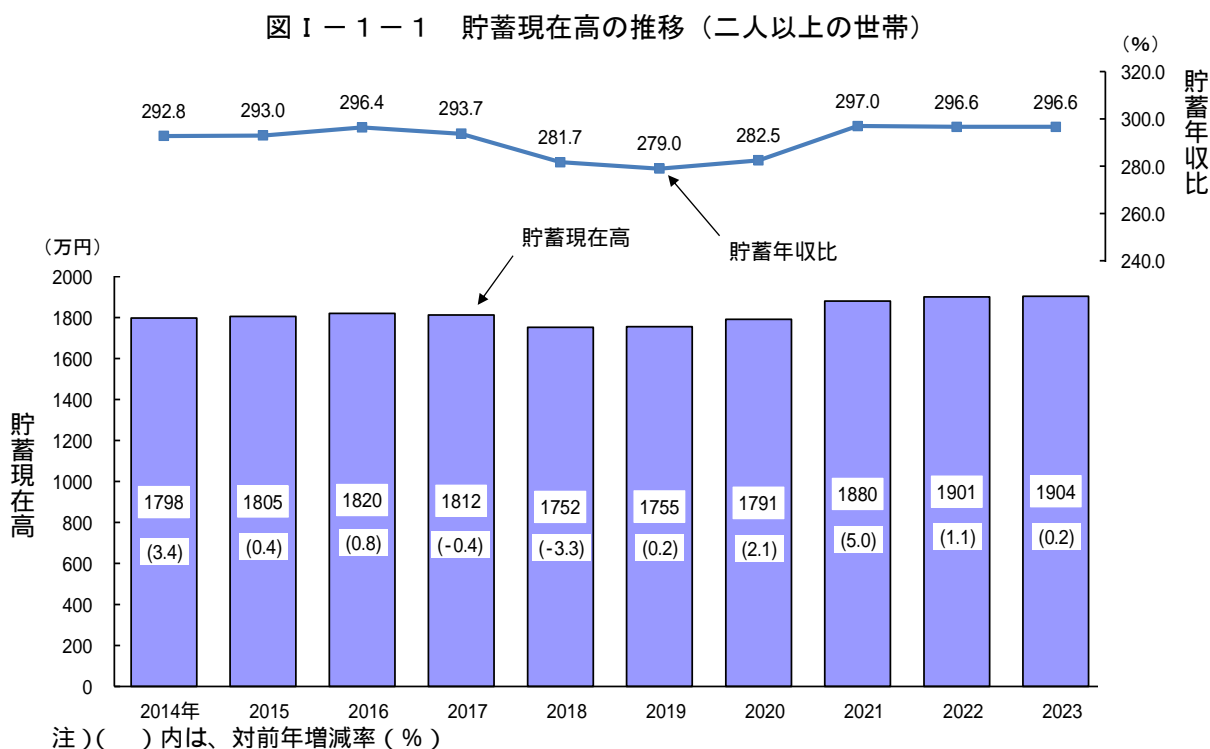
1 概況

(1) 貯蓄現在高は1904万円で5年連続の増加

二人以上の世帯における2023年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）¹は、1904万円で、前年に比べ3万円、0.2%の増加となり、5年連続の増加となるとともに、比較可能な2002年以降で最多となっている。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は、1107万円（前年1168万円）となっている。また、年間収入は642万円で、前年に比べ1万円、0.2%の増加となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は296.6%で、前年と同率になっている。

1 貯蓄現在高が「0」の世帯（以下「貯蓄「0」世帯」という。）を含めた平均値

（図I-1-1、表I-1-1）



表I-1-1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

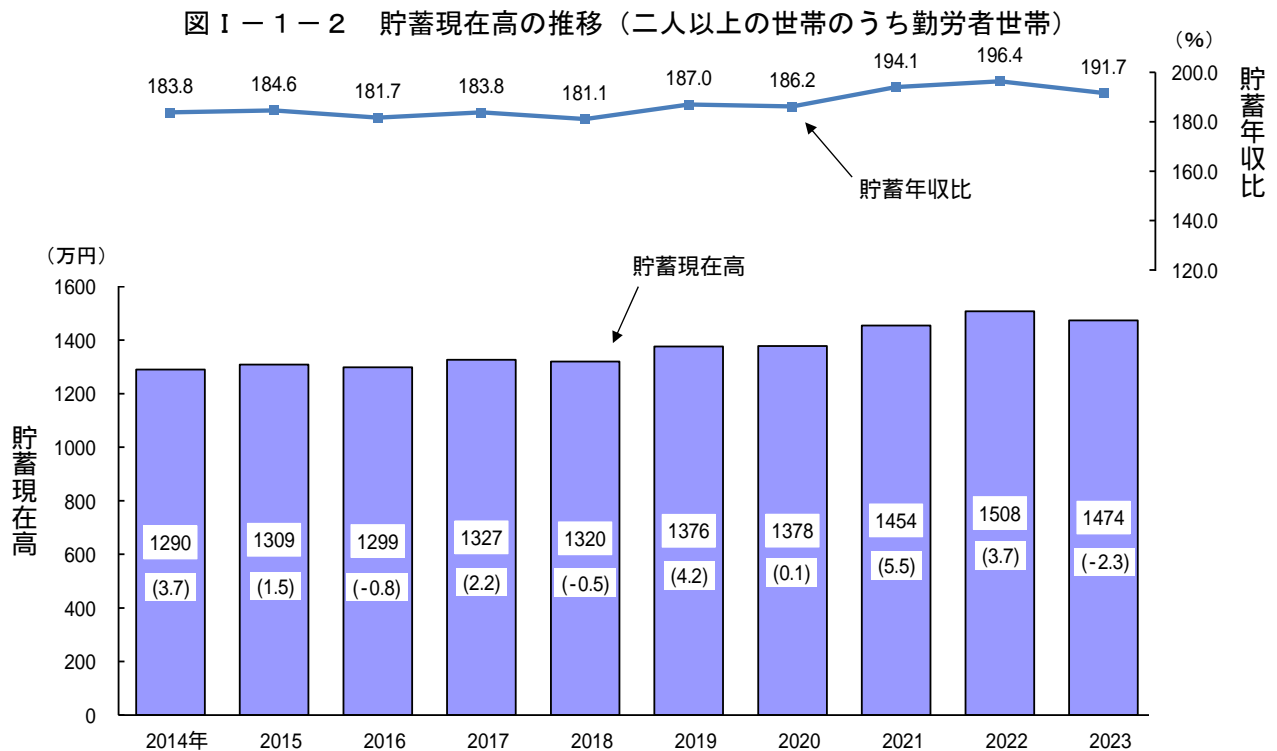
年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 ² (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2014年	1798	614	3.4	-0.3	292.8	1052
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0	1054
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4	1064
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7	1074
2018	1752	622	-3.3	0.8	281.7	1036
2019	1755	629	0.2	1.1	279.0	1033
2020	1791	634	2.1	0.8	282.5	1061
2021	1880	633	5.0	-0.2	297.0	1104
2022	1901	641	1.1	1.3	296.6	1168
2023	1904	642	0.2	0.2	296.6	1107
						(1032)

2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。()内は、2023年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値(参考値)

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合55.9%）についてみると、貯蓄現在高（平均値）¹は1474万円で、前年に比べ34万円、2.3%の減少となり、貯蓄保有世帯の中央値は895万円（前年928万円）となっている。二人以上の世帯全体と比べると、平均値、貯蓄保有世帯の中央値共に少なくなっている。また、年間収入は769万円で、前年に比べ1万円、0.1%の増加となり、貯蓄年収比は191.7%で、前年に比べ4.7ポイントの低下となっている。

1 貯蓄「0」世帯を含めた平均値

（図I-1-2、表I-1-2）



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表I-1-2 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

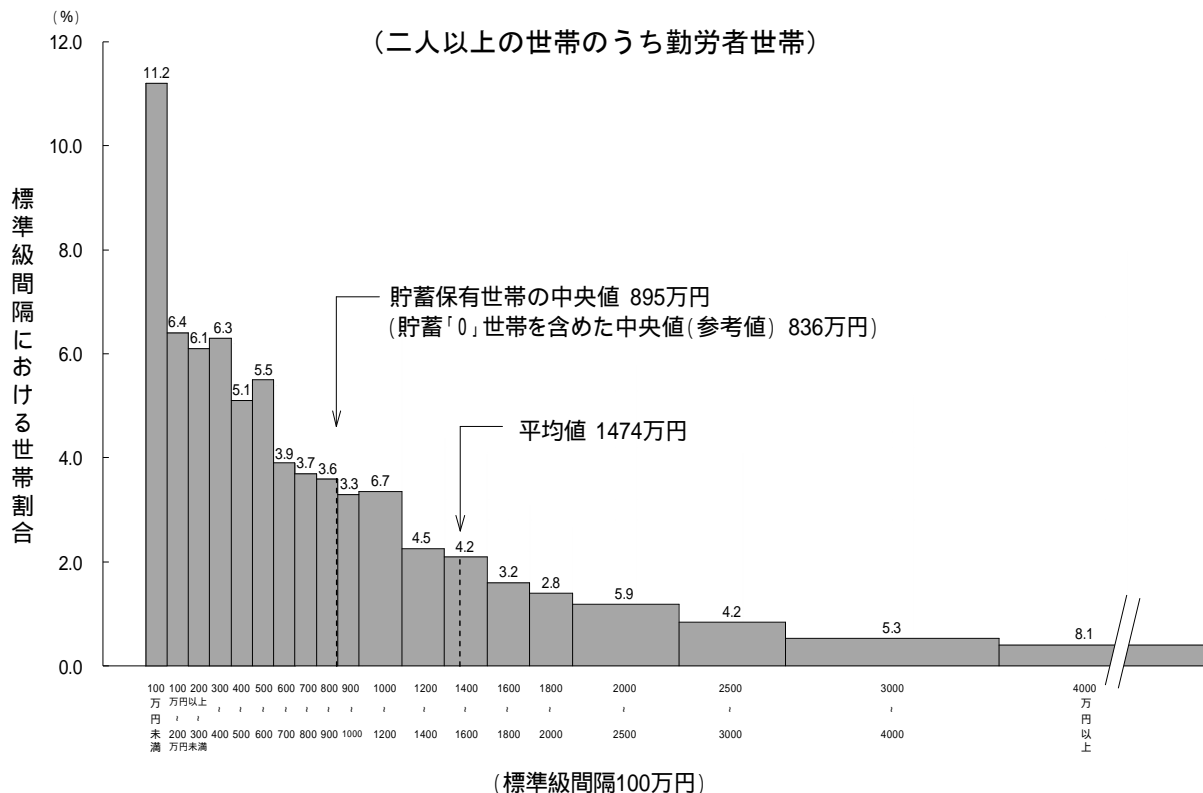
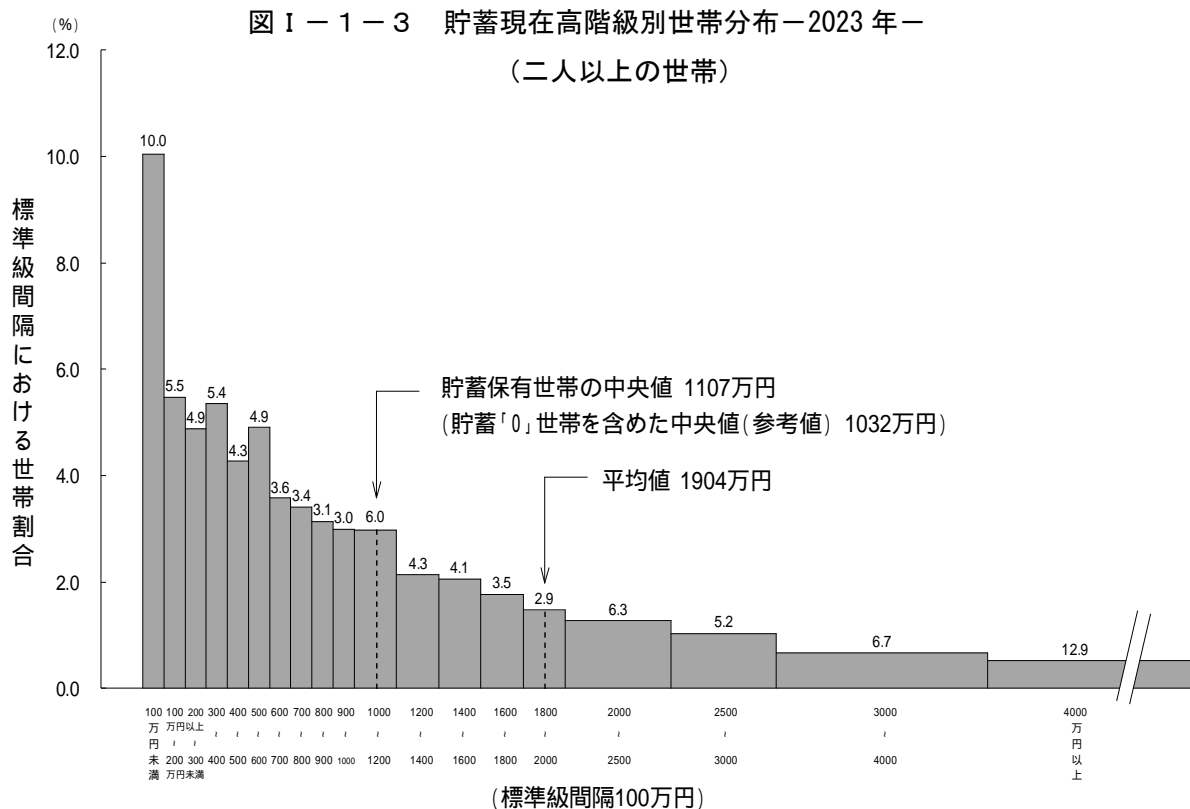
年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 ² (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
2014年	1290	702	3.7	-0.8	183.8	741
2015	1309	709	1.5	1.0	184.6	761
2016	1299	715	-0.8	0.8	181.7	734
2017	1327	722	2.2	1.0	183.8	792
2018	1320	729	-0.5	1.0	181.1	798
2019	1376	736	4.2	1.0	187.0	801
2020	1378	740	0.1	0.5	186.2	826
2021	1454	749	5.5	1.2	194.1	833
2022	1508	768	3.7	2.5	196.4	928
2023	1474	769	-2.3	0.1	191.7	895 (836)

2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。()内は、2023年の貯蓄「0」世帯を含めた中央値(参考値)

(2) 貯蓄現在高が平均値（1904万円）を下回る世帯が約3分の2を占める

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1904万円）を下回る世帯が67.4%（前年66.3%）と約3分の2を占めており、貯蓄現在高の少ない階級に偏った分布となっている。

(図I-1-3)



注) 標準級間隔100万円(貯蓄現在高1000万円未満)の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の区間が標準級間隔よりも広いので、縦軸目盛りとは一致しない。

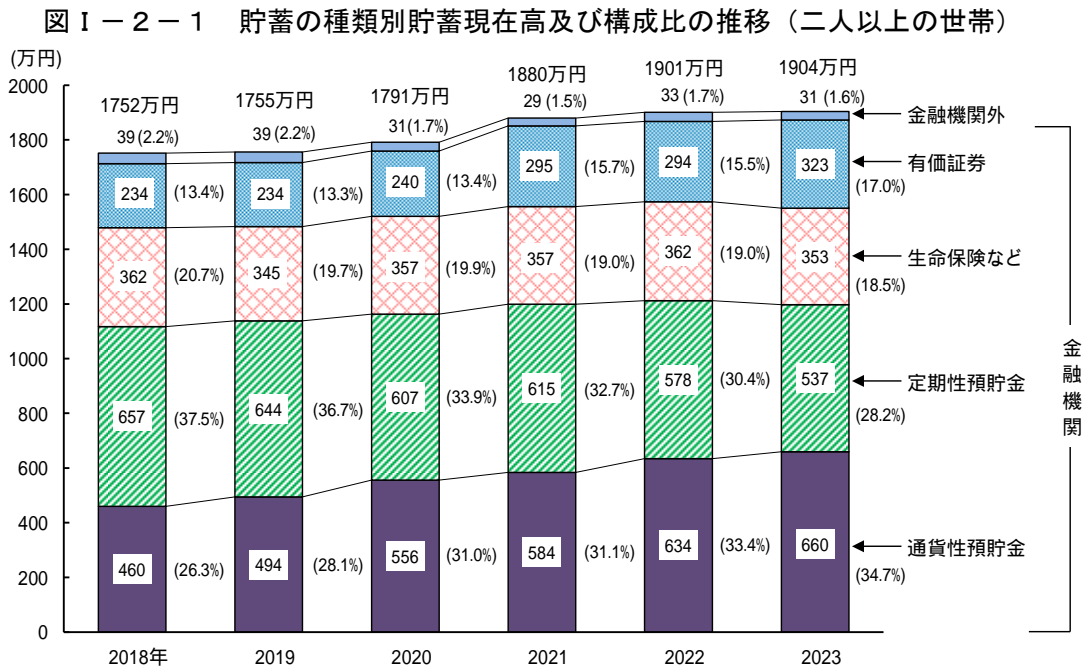
2 貯蓄の種類別内訳

通貨性預貯金は15年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、通貨性預貯金が660万円（貯蓄現在高に占める割合34.7%）と最も多く、次いで定期性預貯金が537万円（同28.2%）、「生命保険など」が353万円（同18.5%）、有価証券が323万円（同17.0%）、金融機関外が31万円（同1.6%）となっている。

2022年と比べると、通貨性預貯金及び有価証券は、増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ26万円、4.1%の増加となり、15年連続の増加となっている。定期性預貯金は、前年に比べ41万円、7.1%の減少となり、2年連続の減少となっている。

（図I-2-1、表I-2-1）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託 金銭信託	株式	債券	投資信託		
金額 (万円)											
2018年	1752	1712	460	657	362	234	11	-	-	-	39
2019年	1755	1716	494	644	345	234	12	-	-	-	39
2020年	1791	1761	556	607	357	240	8	123	29	80	31
2021年	1880	1851	584	615	357	295	7	152	33	102	29
2022年	1901	1868	634	578	362	294	8	146	35	106	33
2023年	1904	1873	660	537	353	323	10	169	29	115	31
構成比 (%)											
2018年	100.0	97.7	26.3	37.5	20.7	13.4	0.6	-	-	-	2.2
2019年	100.0	97.8	28.1	36.7	19.7	13.3	0.7	-	-	-	2.2
2020年	100.0	98.3	31.0	33.9	19.9	13.4	0.4	6.9	1.6	4.5	1.7
2021年	100.0	98.5	31.1	32.7	19.0	15.7	0.4	8.1	1.8	5.4	1.5
2022年	100.0	98.3	33.4	30.4	19.0	15.5	0.4	7.7	1.8	5.6	1.7
2023年	100.0	98.4	34.7	28.2	18.5	17.0	0.5	8.9	1.5	6.0	1.6
対前年増減率 (%)											
2019年	0.2	0.2	7.4	-2.0	-4.7	0.0	9.1	-	-	-	0.0
2020年	2.1	2.6	12.6	-5.7	3.5	2.6	-33.3	-	-	-	-20.5
2021年	5.0	5.1	5.0	1.3	0.0	22.9	-12.5	23.6	13.8	27.5	-6.5
2022年	1.1	0.9	8.6	-6.0	1.4	-0.3	14.3	-3.9	6.1	3.9	13.8
2023年	0.2	0.3	4.1	-7.1	-2.5	9.9	25.0	15.8	-17.1	8.5	-6.1

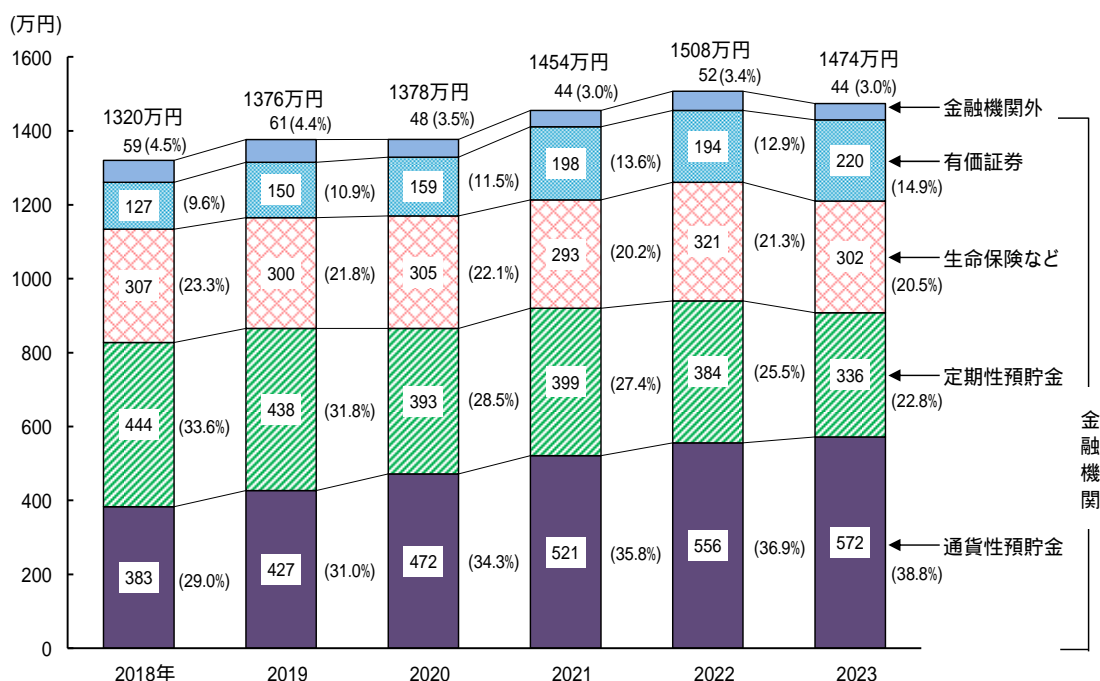
注) 「-」は、調査票の改正により、時系列比較できない部分

このうち勤労者世帯についてみると、通貨性預貯金が572万円（貯蓄現在高に占める割合38.8%）と最も多く、次いで定期性預貯金が336万円（同22.8%）、「生命保険など」が302万円（同20.5%）、有価証券が220万円（同14.9%）、金融機関外が44万円（同3.0%）となっている。

2022年と比べると、通貨性預貯金及び有価証券は、増加となっている。通貨性預貯金は、前年に比べ16万円、2.9%の増加となり、比較可能な2003年以降増加が続いている。一方で、定期性預貯金、「生命保険など」及び金融機関外は、減少となっている。定期性預貯金は、前年に比べ48万円、12.5%の減少となり、2年連続の減少となっている。

（図I-2-2、表I-2-2）

図I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注）（ ）内は、貯蓄現在高に占める割合

表I-2-2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関									金融機関外
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券	貸付信託・金銭信託	株式	債券	投資信託		
金額 (万円)											
2018年	1320	1260	383	444	307	127	4	-	-	-	59
2019年	1376	1316	427	438	300	150	7	-	-	-	61
2020年	1378	1330	472	393	305	159	6	82	17	55	48
2021年	1454	1411	521	399	293	198	5	106	15	73	44
2022年	1508	1456	556	384	321	194	5	91	17	81	52
2023年	1474	1430	572	336	302	220	6	107	17	90	44
構成比 (%)											
2018年	100.0	95.5	29.0	33.6	23.3	9.6	0.3	-	-	-	4.5
2019年	100.0	95.6	31.0	31.8	21.8	10.9	0.5	-	-	-	4.4
2020年	100.0	96.5	34.3	28.5	22.1	11.5	0.4	6.0	1.2	4.0	3.5
2021年	100.0	97.0	35.8	27.4	20.2	13.6	0.3	7.3	1.0	5.0	3.0
2022年	100.0	96.6	36.9	25.5	21.3	12.9	0.3	6.0	1.1	5.4	3.4
2023年	100.0	97.0	38.8	22.8	20.5	14.9	0.4	7.3	1.2	6.1	3.0
対前年増減率 (%)											
2019年	4.2	4.4	11.5	-1.4	-2.3	18.1	75.0	-	-	-	3.4
2020年	0.1	1.1	10.5	-10.3	1.7	6.0	-14.3	-	-	-	-21.3
2021年	5.5	6.1	10.4	1.5	-3.9	24.5	-16.7	29.3	-11.8	32.7	-8.3
2022年	3.7	3.2	6.7	-3.8	9.6	-2.0	0.0	-14.2	13.3	11.0	18.2
2023年	-2.3	-1.8	2.9	-12.5	-5.9	13.4	20.0	17.6	0.0	11.1	-15.4

注）「-」は、調査票の改正により、時系列比較できない部分

負債の状況

1 概況

負債現在高は655万円の前年に比べ13.7%の増加

二人以上の世帯における2023年平均の1世帯あたり負債現在高(平均値)¹は、655万円で、前年に比べ79万円、13.7%の増加となっている。負債年収比(負債現在高の年間収入に対する比)をみると、102.0%と前年に比べ12.1ポイントの上昇となっている。

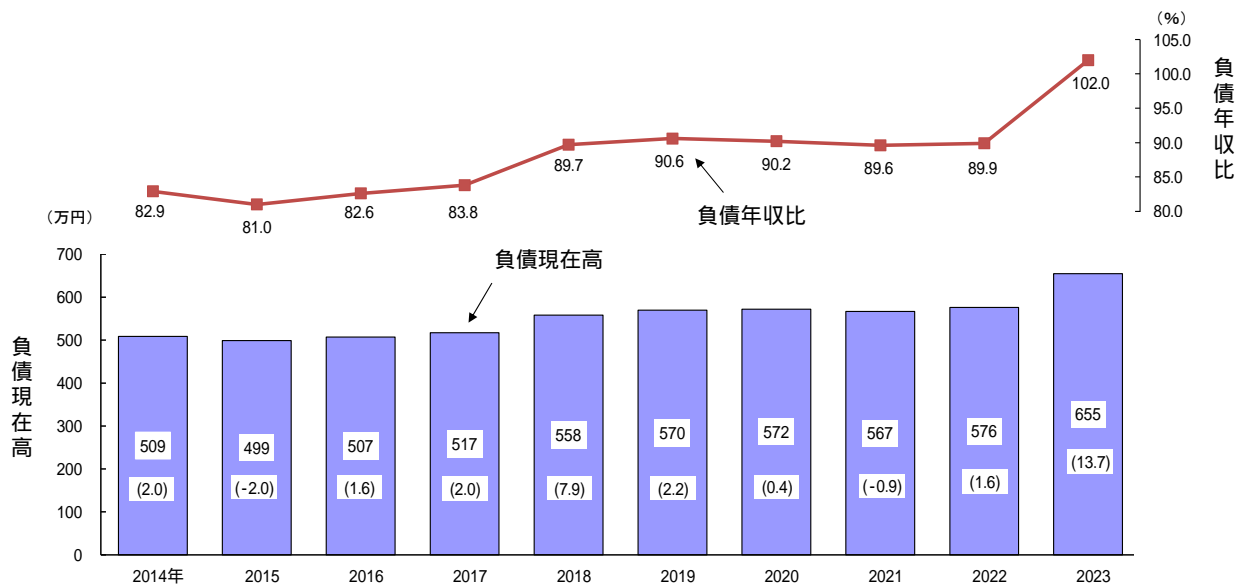
二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合は、39.3%で、前年に比べ1.6ポイントの上昇となっている。

二人以上の世帯の負債保有世帯に限ってみると、負債現在高(平均値)は、1667万円で、平均値を下回る世帯が55.3%を占めている。また、負債保有世帯を二分する中央値は、1422万円(前年1231万円)となっている。

1 負債現在高が「0」の世帯を含めた平均値

(図 - 1 - 1、表 - 1 - 1、図 - 1 - 3)

図Ⅱ-1-1 負債現在高の推移(二人以上の世帯)



注) () 内は、対前年増減率 (%)

表Ⅱ-1-1 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移(二人以上の世帯)

年次	負債現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		負債年収比 (1)/(2) (%)	負債保有世帯の割合 (%)	負債保有世帯の負債現在高 (万円)	負債保有世帯の中央値 ² (万円)
			負債現在高 (%)	年間収入 (%)				
2014年	509	614	2.0	-0.3	82.9	37.8	1349	1019
2015年	499	616	-2.0	0.3	81.0	38.1	1310	976
2016年	507	614	1.6	-0.3	82.6	37.3	1357	1006
2017年	517	617	2.0	0.5	83.8	37.5	1379	1080
2018年	558	622	7.9	0.8	89.7	39.0	1430	1147
2019年	570	629	2.2	1.1	90.6	39.3	1451	1218
2020年	572	634	0.4	0.8	90.2	38.5	1486	1225
2021年	567	633	-0.9	-0.2	89.6	37.7	1505	1233
2022年	576	641	1.6	1.3	89.9	37.7	1528	1231
2023年	655	642	13.7	0.2	102.0	39.3	1667	1422

2 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

二人以上の世帯のうち勤労者世帯についてみると、負債現在高（平均値）¹は、1009万円で、前年に比べ130万円、14.8%の増加となっている。負債年収比をみると、131.2%と前年に比べ16.7ポイントの上昇となっている。

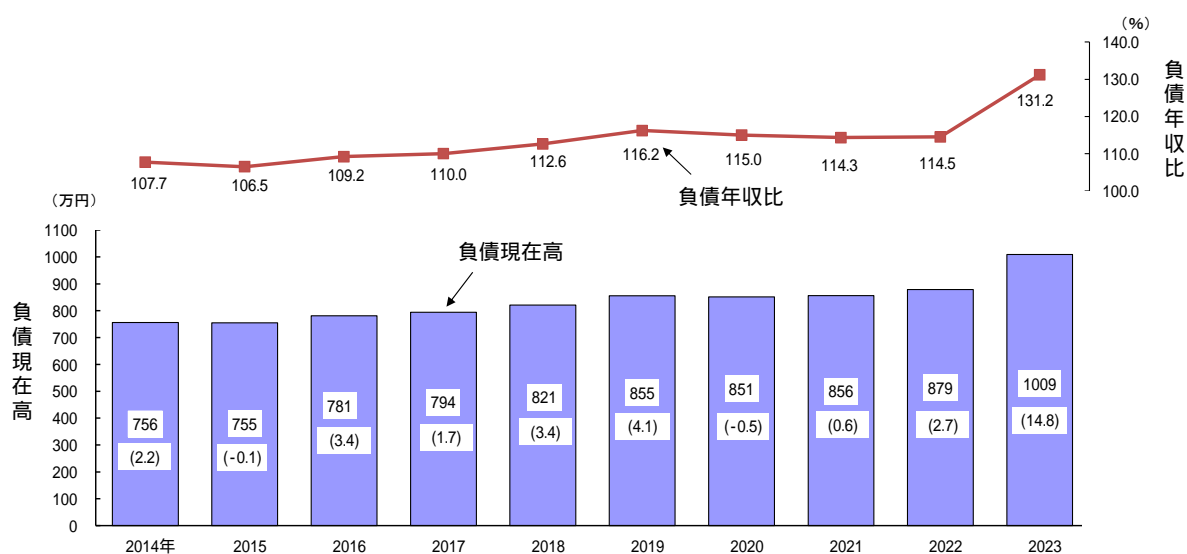
負債保有世帯の割合は、55.7%で、前年に比べ2.5ポイントの上昇となっている。

負債保有世帯に限ってみると、負債現在高（平均値）は、1811万円で、平均値を下回る世帯が53.6%を占めている。

1 負債現在高が「0」の世帯を含めた平均値

（図 - 1 - 2、表 - 1 - 2、図 - 1 - 3）

図Ⅱ－1－2 負債現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



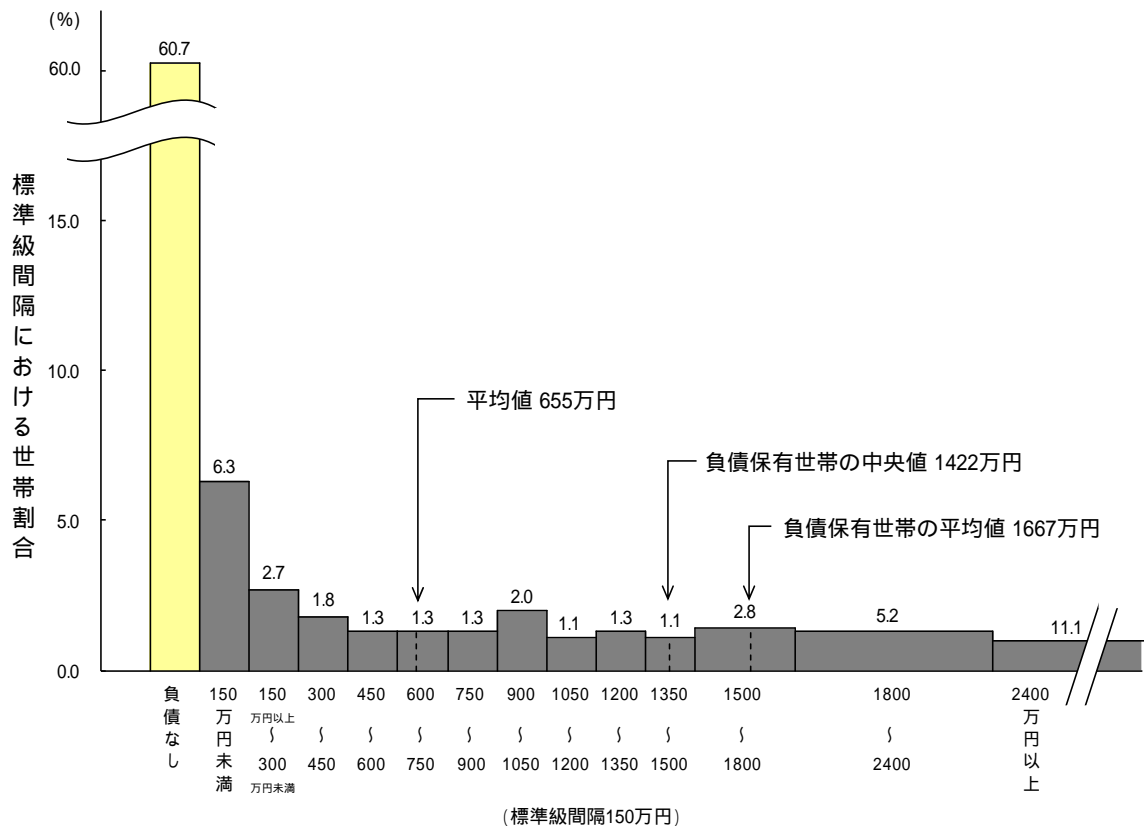
注) () 内は、対前年増減率 (%)

表Ⅱ－1－2 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

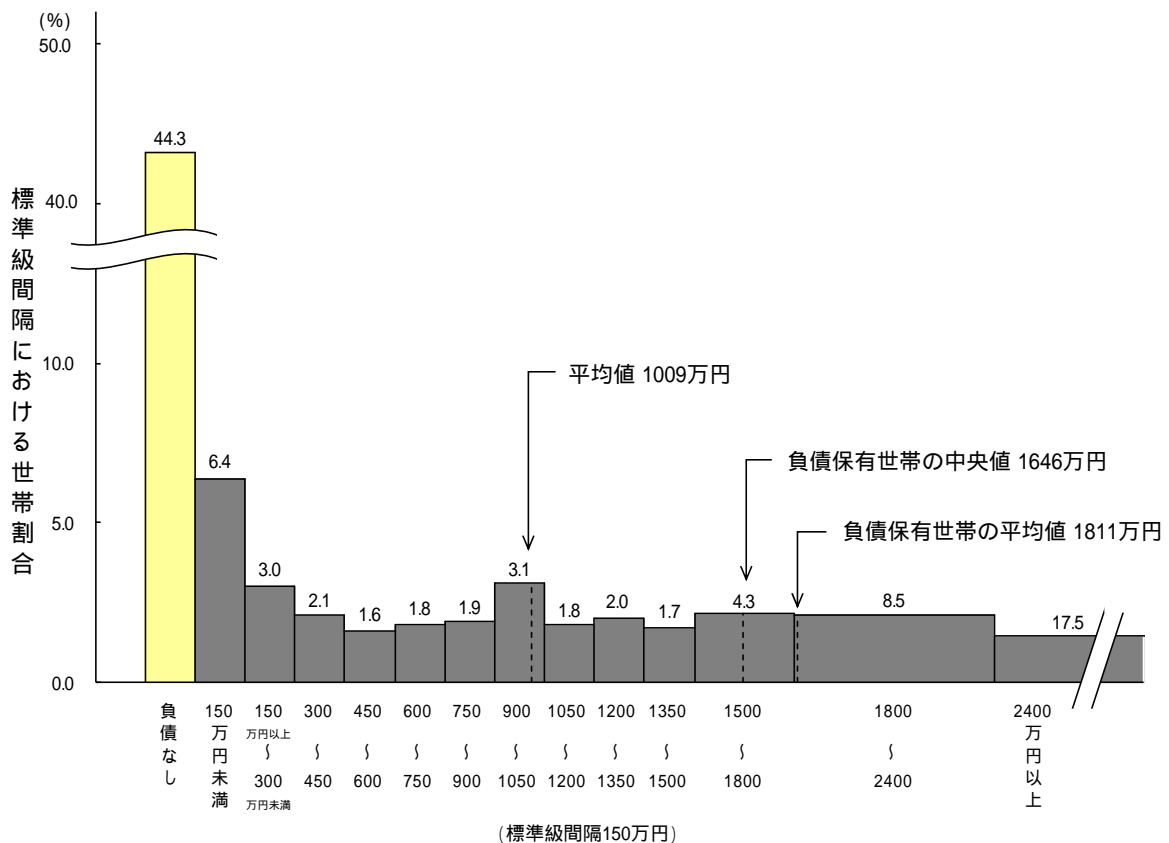
年次	負債現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		負債年収比 (1)/(2) (%)	負債保有世帯の割合 (%)	負債保有世帯の負債現在高 (万円)	負債保有世帯の中央値 ² (万円)
			負債現在高 (%)	年間収入 (%)				
2014年	756	702	2.2	-0.8	107.7	52.9	1428	1255
2015年	755	709	-0.1	1.0	106.5	53.8	1403	1195
2016年	781	715	3.4	0.8	109.2	53.9	1449	1313
2017年	794	722	1.7	1.0	110.0	54.1	1467	1315
2018年	821	729	3.4	1.0	112.6	54.6	1505	1356
2019年	855	736	4.1	1.0	116.2	55.3	1548	1449
2020年	851	740	-0.5	0.5	115.0	54.3	1569	1466
2021年	856	749	0.6	1.2	114.3	53.4	1603	1468
2022年	879	768	2.7	2.5	114.5	53.2	1650	1490
2023年	1009	769	14.8	0.1	131.2	55.7	1811	1646

2 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

図Ⅱ－１－３ 負債現在高階級別世帯分布－2023年－
(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) 標準級間隔 150 万円 (負債現在高 1500 万円未満) の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、負債現在高 1500 万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため、縦軸目盛りとは一致しない。

2 負債の種類別内訳

住宅・土地のための負債は601万円で前年に比べ14.3%の増加

二人以上の世帯について負債の種類別に負債現在高をみると、負債現在高の約9割(91.8%)を占める住宅・土地のための負債は、601万円で、前年に比べ75万円、14.3%の増加となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、住宅・土地のための負債は、941万円で、前年に比べ128万円、15.7%の増加となっている。

二人以上の世帯の住宅・土地のための負債について、借入先の内訳をみると、公的機関は、94万円で、前年に比べ21万円、28.8%の増加となっている。また、民間機関は、500万円で、前年に比べ52万円、11.6%の増加となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、公的機関は、148万円で、前年に比べ35万円、31.0%の増加となっている。また、民間機関は、783万円で、前年に比べ93万円、13.5%の増加となっている。

(表 - 2 - 1)

表Ⅱ-2-1 負債の種類別負債現在高

項 目	二 人 以 上 の 世 帯				
	2022年	2023年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負債現在高	576	655	100.0	13.7	39.3
住宅・土地のための負債	526	601	91.8	14.3	30.7
公的機関	73	94	14.4	28.8	5.1
民間機関	448	500	76.3	11.6	25.4
その他	6	6	0.9	0.0	0.7
住宅・土地以外の負債	35	39	6.0	11.4	7.8
公的機関	8	8	1.2	0.0	1.8
民間機関	25	29	4.4	16.0	5.7
その他	2	2	0.3	0.0	1.1
月賦・年賦	15	15	2.3	0.0	11.3

項 目	二 人 以 上 の 世 帯 の う ち 勤 労 者 世 帯				
	2022年	2023年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負債現在高	879	1009	100.0	14.8	55.7
住宅・土地のための負債	813	941	93.3	15.7	46.9
公的機関	113	148	14.7	31.0	7.6
民間機関	690	783	77.6	13.5	39.1
その他	9	10	1.0	11.1	1.0
住宅・土地以外の負債	45	49	4.9	8.9	10.4
公的機関	9	9	0.9	0.0	2.1
民間機関	34	38	3.8	11.8	7.6
その他	3	2	0.2	-33.3	1.4
月賦・年賦	21	19	1.9	-9.5	13.7

世帯属性別にみた貯蓄・負債の状況

1 世帯主の年齢階級別

(1) 世帯主が50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回る

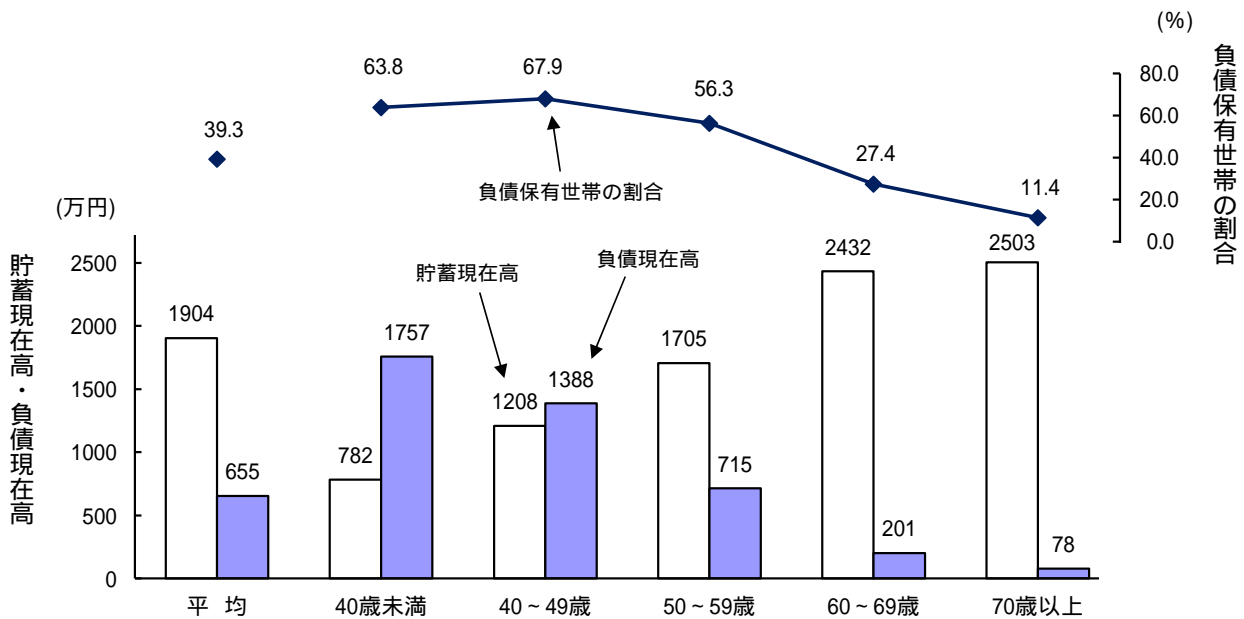
二人以上の世帯について世帯主の年齢階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が782万円と最も少なく、60歳以上の各年齢階級では2000万円を超える貯蓄現在高となっている。

負債現在高をみると、40歳未満の世帯が1757万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高が少なくなっている。また、負債保有世帯の割合は40～49歳の世帯が67.9%と最も高く、40歳以上の世帯では年齢階級が高くなるに従って低くなっている。

純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2425万円と最も多くなっている。一方、50歳未満の世帯では、負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、負債超過となっている。

(図 - 1 - 1、表 - 1 - 1)

図Ⅲ－1－1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合
(二人以上の世帯)－2023年－



表Ⅲ－１－１ 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
貯蓄現在高(万円)						
2018年	1752	600	1012	1778	2327	2249
2019	1755	691	1076	1704	2330	2253
2020	1791	708	1081	1703	2384	2259
2021	1880	726	1134	1846	2537	2318
2022	1901	812	1160	1828	2458	2411
2023	1904	782	1208	1705	2432	2503
対前年増減率(%)						
2019年	0.2	15.2	6.3	-4.2	0.1	0.2
2020	2.1	2.5	0.5	-0.1	2.3	0.3
2021	5.0	2.5	4.9	8.4	6.4	2.6
2022	1.1	11.8	2.3	-1.0	-3.1	4.0
2023	0.2	-3.7	4.1	-6.7	-1.1	3.8
年間収入(万円)						
2023年	642	685	800	871	611	423
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)						
2023年	296.6	114.2	151.0	195.8	398.0	591.7
負債現在高(万円)						
2018年	558	1248	1105	683	207	104
2019	570	1341	1124	652	250	70
2020	572	1244	1231	699	242	86
2021	567	1366	1172	692	214	86
2022	576	1469	1226	620	207	90
2023	655	1757	1388	715	201	78
対前年増減率(%)						
2019年	2.2	7.5	1.7	-4.5	20.8	-32.7
2020	0.4	-7.2	9.5	7.2	-3.2	22.9
2021	-0.9	9.8	-4.8	-1.0	-11.6	0.0
2022	1.6	7.5	4.6	-10.4	-3.3	4.7
2023	13.7	19.6	13.2	15.3	-2.9	-13.3
住宅・土地のための負債(万円)						
2018年	501	1184	1031	588	163	75
2019	518	1283	1052	578	190	51
2020	518	1169	1152	620	192	66
2021	513	1292	1080	618	172	62
2022	526	1392	1150	549	161	75
2023	601	1651	1309	643	163	57
負債保有世帯の割合(%)						
2018年	39.0	61.5	65.4	53.5	26.8	12.5
2019	39.3	61.9	66.2	55.3	26.9	11.9
2020	38.5	58.2	66.6	56.5	27.6	12.5
2021	37.7	59.2	63.7	52.6	28.0	12.5
2022	37.7	58.2	66.1	51.4	27.2	12.2
2023	39.3	63.8	67.9	56.3	27.4	11.4
純貯蓄額(貯蓄現在高 - 負債現在高)(万円) ¹						
2018年	1194	-648	-93	1095	2120	2145
2019	1185	-650	-48	1052	2080	2183
2020	1219	-536	-150	1004	2142	2173
2021	1313	-640	-38	1154	2323	2232
2022	1325	-657	-66	1208	2251	2321
2023	1249	-975	-180	990	2231	2425
世帯数分布(%) ²						
2023年	100.0	11.7	18.1	18.9	19.1	32.2

1 マイナスは、負債超過額を示す。

2 貯蓄・負債編は、貯蓄・負債不詳世帯を除いて集計している。このため、世帯数分布は家計収支編の世帯数分布とは必ずしも一致しない。

(2) 負債保有世帯のうち負債超過額が最も多いのは世帯主が40歳未満の世帯

二人以上の世帯のうち負債保有世帯について世帯主の年齢階級別に貯蓄現在高をみると、40歳未満の世帯が821万円と最も少なくなっているのに対し、60歳以上の世帯は1682万円と最も多くなっており、年齢階級が高くなるに従って貯蓄現在高は多くなっている。

負債現在高をみると、40歳未満の世帯が2754万円と最も多く、年齢階級が高くなるに従って負債現在高は少なくなっている。

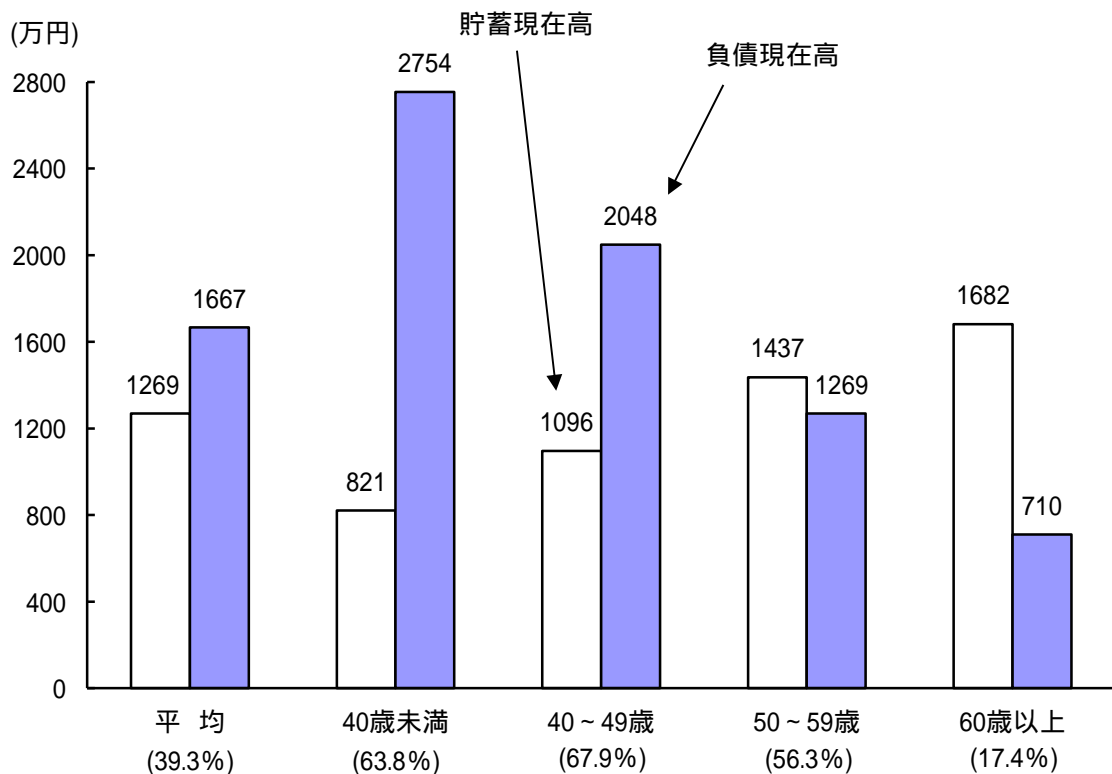
純貯蓄額をみると、50歳未満の各年齢階級で負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、40歳未満の世帯の負債超過額が1933万円と最も多くなっている。一方、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、60歳以上の世帯の純貯蓄額は972万円となっている。

40歳未満の世帯について貯蓄現在高をみると、前年に比べ9万円、1.1%の増加となっている。また、負債現在高は前年に比べ237万円、9.4%の増加となり、負債現在高の約9割(94.0%)を占める住宅・土地のための負債は2589万円で、前年に比べ205万円、8.6%の増加となっている。

(図 - 1 - 2、表 - 1 - 2)

図Ⅲ-1-2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯のうち負債保有世帯) - 2023年 -



注) ()内は、当該階級ごとの二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合

表Ⅲ－１－２ 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移
(二人以上の世帯のうち負債保有世帯)

年次	平均	40歳未満	40～49歳	50～59歳	60歳以上
貯蓄現在高(万円)					
2018年	1119	585	880	1428	1530
2019年	1100	670	951	1244	1510
2020年	1203	678	952	1380	1725
2021年	1250	697	973	1428	1781
2022年	1264	812	1075	1399	1689
2023年	1269	821	1096	1437	1682
対前年増減率(%)					
2019年	-1.7	14.5	8.1	-12.9	-1.3
2020年	9.4	1.2	0.1	10.9	14.2
2021年	3.9	2.8	2.2	3.5	3.2
2022年	1.1	16.5	10.5	-2.0	-5.2
2023年	0.4	1.1	2.0	2.7	-0.4
年間収入(万円)					
2023年	784	718	826	935	603
貯蓄年収比(貯蓄現在高/年間収入)(%)					
2023年	161.9	114.3	132.7	153.7	278.9
負債現在高(万円)					
2018年	1430	2029	1689	1277	794
2019年	1451	2167	1697	1178	801
2020年	1486	2142	1850	1235	802
2021年	1505	2308	1840	1314	732
2022年	1528	2517	1855	1205	752
2023年	1667	2754	2048	1269	710
対前年増減率(%)					
2019年	1.5	6.8	0.5	-7.8	0.9
2020年	2.4	-1.2	9.0	4.8	0.1
2021年	1.3	7.7	-0.5	6.4	-8.7
2022年	1.5	9.1	0.8	-8.3	2.7
2023年	9.1	9.4	10.4	5.3	-5.6
住宅・土地のための負債(万円)					
2018年	1283	1924	1576	1100	604
2019年	1318	2073	1587	1045	601
2020年	1346	2012	1731	1097	628
2021年	1359	2183	1697	1174	567
2022年	1395	2384	1740	1067	600
2023年	1529	2589	1930	1141	552
純貯蓄額(貯蓄現在高 - 負債現在高)(万円)					
2018年	-311	-1444	-809	151	736
2019年	-351	-1497	-746	66	709
2020年	-283	-1464	-898	145	923
2021年	-255	-1611	-867	114	1049
2022年	-264	-1705	-780	194	937
2023年	-398	-1933	-952	168	972
世帯数分布(%)					
2023年	100.0	19.0	31.2	27.1	22.7

マイナスは、負債超過額を示す。

2 年間収入五分位階級別

(1) 負債現在高は年間収入が高くなるに従って多い

二人以上の世帯について年間収入五分位階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、年間収入が最も低い第1階級(世帯主の平均年齢71.0歳)が1445万円、年間収入が最も高い第5階級(同52.6歳)が2652万円となっている。

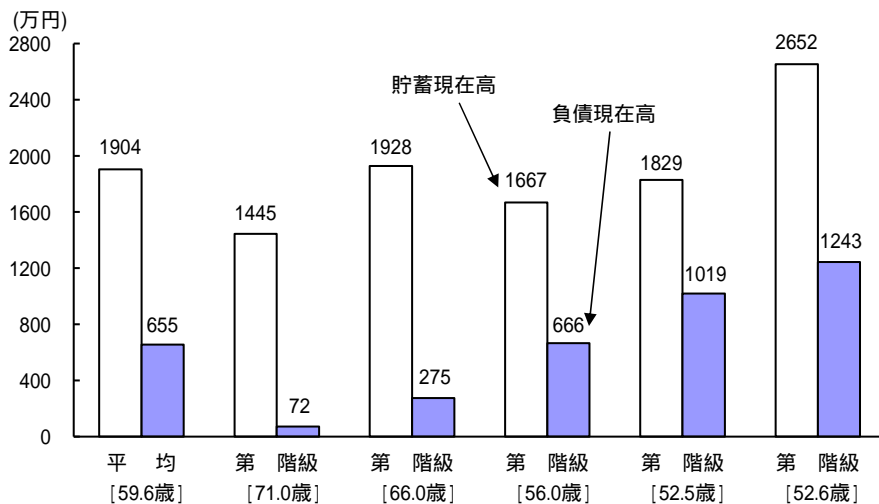
貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると、定期性預貯金は第1階級が37.1%と最も高く、第5階級が22.4%と最も低くなっている。有価証券は第1階級が18.5%と最も高く、第5階級が12.5%と最も低くなっている。

負債現在高をみると、第1階級が72万円、第5階級が1243万円となっており、年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなっている。

(図 - 2 - 1、図 - 2 - 2、表 - 2 - 1)

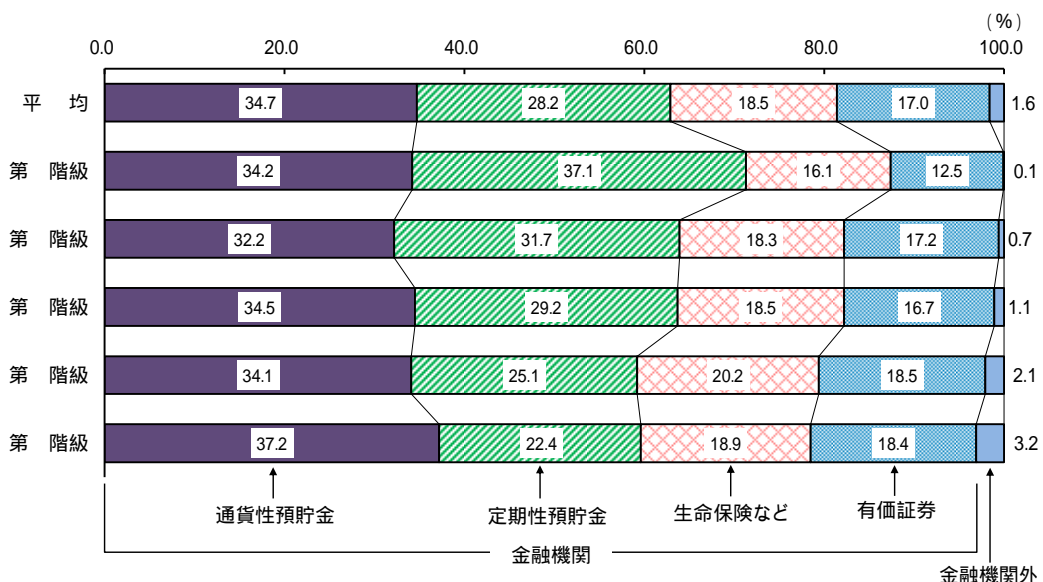
年間収入五分位階級とは、年間収入の低い方から高い世帯へと順に並べて5等分したもので、低い方から第1、第2、第3、第4、第5(五分位)階級という。

図Ⅲ-2-1 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高(二人以上の世帯) - 2023年 -



注) []内は、世帯主の平均年齢

図Ⅲ-2-2 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比(二人以上の世帯) - 2023年 -



表Ⅲ－２－１ 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯)－2023年－

項 目	平 均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		～ 334万円	334～ 477万円	477～ 651万円	651～ 889万円	889万円 ～
世 帯 人 員 (人)	2.90	2.32	2.57	3.03	3.26	3.30
世 帯 主 の 年 齢 (歳)	59.6	71.0	66.0	56.0	52.5	52.6
持 家 率 (%)	86.5	86.4	86.9	85.3	85.7	88.1
年 間 収 入	642	260	401	561	759	1231
			金 額(万円)			
貯 蓄 現 在 高	1904	1445	1928	1667	1829	2652
金 融 機 関	1873	1443	1915	1648	1791	2568
通 貨 性 預 貯 金	660	494	621	575	624	987
定 期 性 預 貯 金	537	536	611	486	459	594
生 命 保 険 な ど	353	233	352	309	370	500
有 価 証 券	323	181	331	278	338	488
金 融 機 関 外	31	2	14	19	38	84
			構 成 比(%)			
貯 蓄 現 在 高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金 融 機 関	98.4	99.9	99.3	98.9	97.9	96.8
通 貨 性 預 貯 金	34.7	34.2	32.2	34.5	34.1	37.2
定 期 性 預 貯 金	28.2	37.1	31.7	29.2	25.1	22.4
生 命 保 険 な ど	18.5	16.1	18.3	18.5	20.2	18.9
有 価 証 券	17.0	12.5	17.2	16.7	18.5	18.4
金 融 機 関 外	1.6	0.1	0.7	1.1	2.1	3.2
			金 額(万円)			
負 債 現 在 高	655	72	275	666	1019	1243
住 宅 ・ 土 地 の た め の 負 債	601	57	241	617	932	1157
住 宅 ・ 土 地 以 外 の 負 債	39	10	24	32	64	65
月 賦 ・ 年 賦	15	5	9	17	22	22
			構 成 比(%)			
負 債 現 在 高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住 宅 ・ 土 地 の た め の 負 債	91.8	79.2	87.6	92.6	91.5	93.1
住 宅 ・ 土 地 以 外 の 負 債	6.0	13.9	8.7	4.8	6.3	5.2
月 賦 ・ 年 賦	2.3	6.9	3.3	2.6	2.2	1.8

(2) 勤労者世帯の貯蓄現在高は年間収入が高くなるに従って多い

二人以上の世帯のうち勤労者世帯について年間収入五分位階級別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、年間収入が最も低い第1階級(世帯主の平均年齢52.1歳)が876万円、年間収入が最も高い第5階級(同50.4歳)が2517万円となっており、年間収入が高くなるに従って貯蓄現在高が多くなっている。

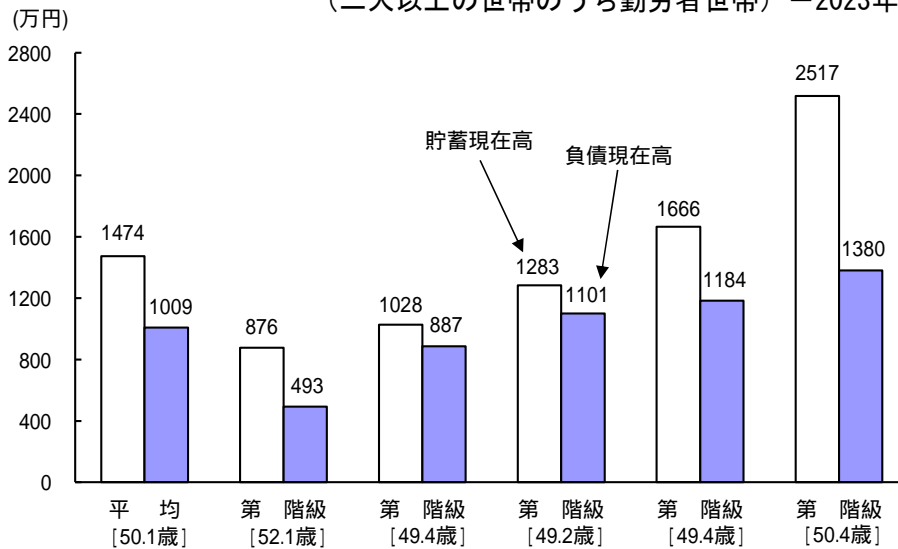
貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比をみると、定期性預貯金は第1階級が26.9%と最も高く、第5階級が19.4%と最も低くなっている。有価証券は第1階級が18.6%と最も高く、第5階級が11.2%と最も低くなっている。

負債現在高をみると、第1階級が493万円、第5階級が1380万円となっており、年間収入が高くなるに従って負債現在高が多くなっている。

(図 - 2 - 3、図 - 2 - 4、表 - 2 - 2)

図Ⅲ-2-3 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高

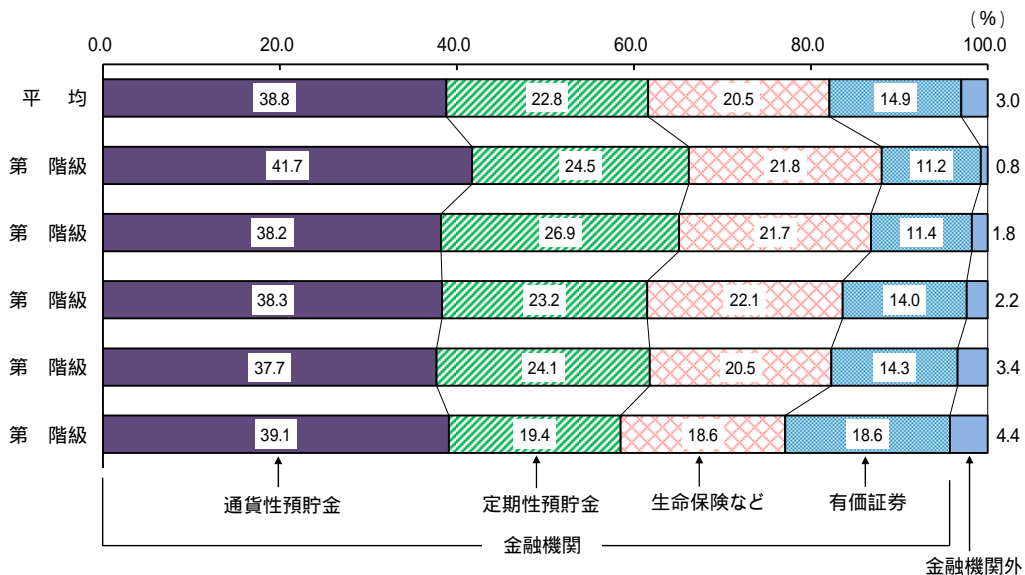
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2023年 -



注) []内は、世帯主の平均年齢

図Ⅲ-2-4 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯) - 2023年 -



表Ⅲ－２－２ 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高

(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)－2023年－

項 目	平 均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		～ 491万円	491～ 637万円	637～ 785万円	785～ 1001万円	1001万円 ～
世帯人員(人)	3.22	2.85	3.22	3.34	3.33	3.36
世帯主の年齢(歳)	50.1	52.1	49.4	49.2	49.4	50.4
持家率(%)	82.0	72.1	81.1	84.5	84.4	87.9
年間収入	769	379	金額(万円)		882	1309
			566	706		
貯蓄現在高	1474	876	金額(万円)		1666	2517
金融機関	1430	869	1028	1283	1610	2407
通貨性預貯金	572	365	1010	1255	1610	2407
定期性預貯金	336	215	393	492	628	983
生命保険など	302	191	277	298	402	489
有価証券	220	98	223	284	342	468
金融機関外	44	7	117	180	238	468
			18	28	56	110
貯蓄現在高	100.0	100.0	構成比(%)		100.0	100.0
金融機関	97.0	99.2	100.0	100.0	96.6	95.6
通貨性預貯金	38.8	41.7	98.2	97.8	96.6	95.6
定期性預貯金	22.8	24.5	38.2	38.3	37.7	39.1
生命保険など	20.5	21.8	26.9	23.2	24.1	19.4
有価証券	14.9	11.2	21.7	22.1	20.5	18.6
金融機関外	3.0	0.8	11.4	14.0	14.3	18.6
			1.8	2.2	3.4	4.4
負債現在高	1009	493	金額(万円)		1184	1380
住宅・土地のための負債	941	447	887	1101	1122	1297
住宅・土地以外の負債	49	33	836	1003	1122	1297
月賦・年賦	19	14	33	78	42	60
			18	20	20	23
負債現在高	100.0	100.0	構成比(%)		100.0	100.0
住宅・土地のための負債	93.3	90.7	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅・土地以外の負債	4.9	6.7	94.3	91.1	94.8	94.0
月賦・年賦	1.9	2.8	3.7	7.1	3.5	4.3
			2.0	1.8	1.7	1.7

3 貯蓄現在高五分位階級別

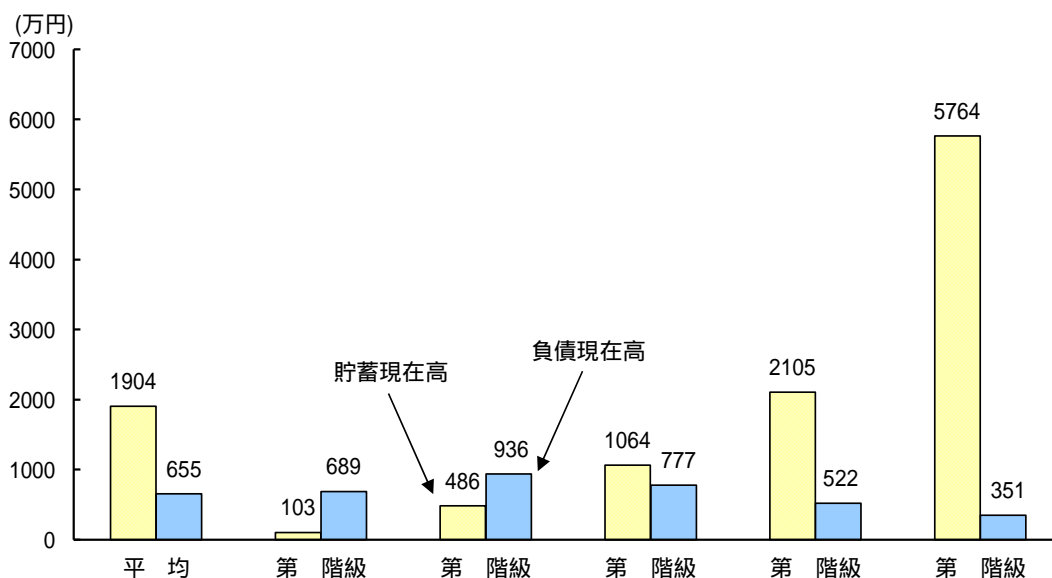
貯蓄現在高が最も多い第Ⅴ階級の世帯の有価証券の割合は約2割

二人以上の世帯について貯蓄現在高五分位階級別に貯蓄・負債現在高をみると、貯蓄現在高が多くなるに従って、負債現在高は少なくなる傾向にある。貯蓄の種類別割合をみると、貯蓄現在高が少ない階級ほど、通貨性預貯金の割合が高くなっている。一方、貯蓄現在高が多い階級ほど、定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなっている。貯蓄現在高が最も多い第Ⅴ階級についてみると、有価証券の割合は約2割（21.9%）となっている。

（図 - 3 - 1、図 - 3 - 2、表 - 3 - 1）

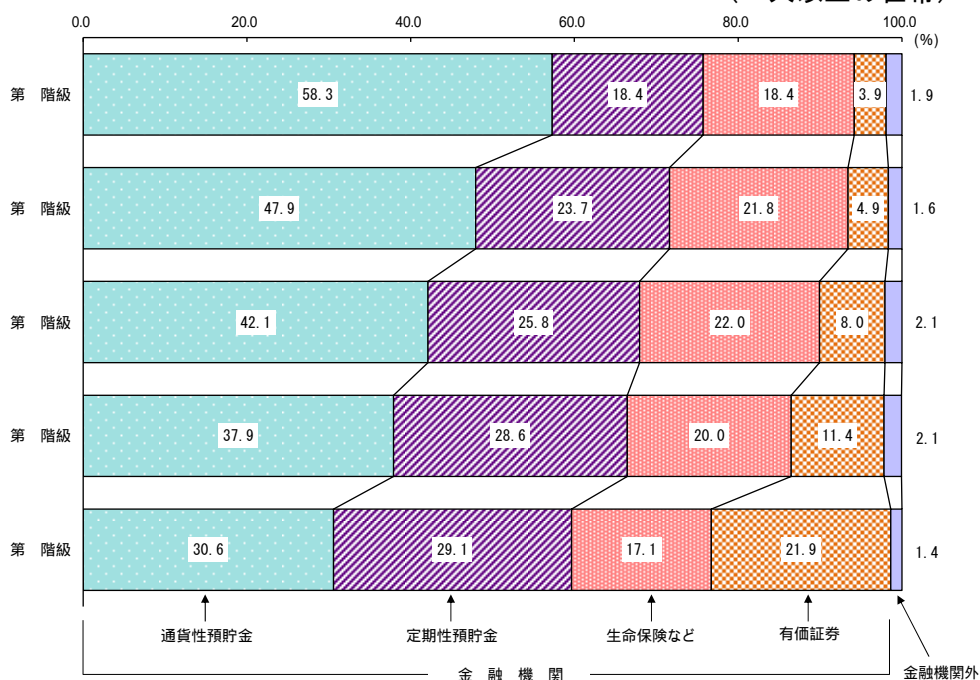
貯蓄現在高五分位階級とは、貯蓄現在高の少ない方から多い世帯へと順に並べて5等分したもので、少ない方から第Ⅰ階級、第Ⅱ階級、第Ⅲ階級、第Ⅳ階級、第Ⅴ階級（五分位）階級という。

図Ⅲ-3-1 貯蓄現在高五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）-2023年-



図Ⅲ-3-2 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比

（二人以上の世帯）-2023年-



表Ⅲ－３－１ 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）－2023年－

項 目	平 均	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級	第 階級
		~ 285万円	285 ~ 726万円	726 ~ 1484万円	1484 ~ 2944万円	2944万円 ~
金 額 (万円)						
貯蓄現在高	1904	103	486	1064	2105	5764
金融機関	1873	101	479	1042	2059	5685
通貨性預貯金	660	60	233	448	798	1762
定期性預貯金	537	19	115	275	601	1676
生命保険など	353	19	106	234	421	984
有価証券	323	4	24	85	239	1263
金融機関外	31	2	8	22	45	79
(参考)年間収入	642	506	602	670	676	757
構 成 比 (%)						
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	98.4	98.1	98.6	97.9	97.8	98.6
通貨性預貯金	34.7	58.3	47.9	42.1	37.9	30.6
定期性預貯金	28.2	18.4	23.7	25.8	28.6	29.1
生命保険など	18.5	18.4	21.8	22.0	20.0	17.1
有価証券	17.0	3.9	4.9	8.0	11.4	21.9
金融機関外	1.6	1.9	1.6	2.1	2.1	1.4
構成比の対前年変化幅(ポイント)						
貯蓄現在高						
金融機関	0.1	-1.0	-0.1	0.0	-0.1	0.2
通貨性預貯金	1.3	-0.4	0.4	3.0	1.8	1.3
定期性預貯金	-2.2	-0.9	-2.3	-4.1	-2.7	-1.7
生命保険など	-0.5	0.1	0.9	-0.1	0.1	-0.8
有価証券	1.5	1.1	0.7	1.1	0.9	1.5
金融機関外	-0.1	1.0	0.3	0.1	0.0	-0.2

4 持家世帯（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

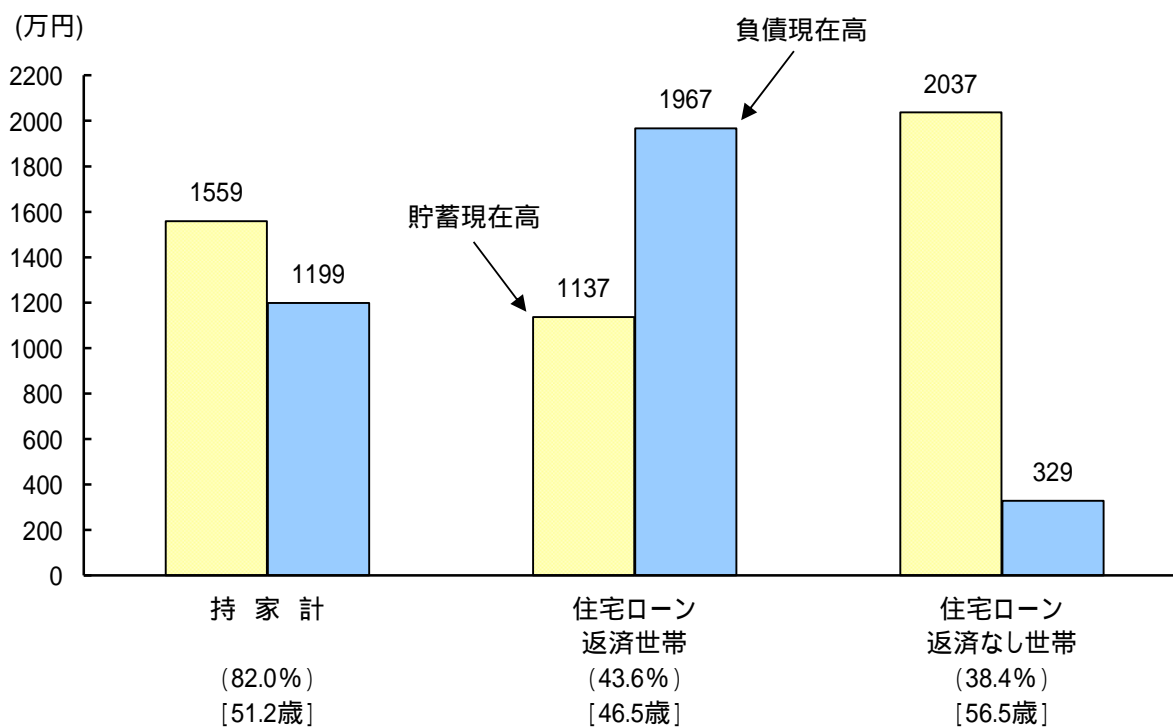
持家世帯のうち住宅ローン返済世帯の負債現在高は1967万円

二人以上の世帯の勤労者世帯のうち持家世帯（勤労者世帯に占める割合82.0%、世帯主の平均年齢51.2歳）について、住宅ローンの有無別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、住宅ローン返済世帯（同43.6%、同46.5歳）は、1137万円となっており、前年に比べ5万円、0.4%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯（同38.4%、同56.5歳）は、2037万円となっており、前年に比べ83万円、3.9%の減少となっている。

同様に、負債現在高をみると、住宅ローン返済世帯は、1967万円となっており、前年に比べ149万円、8.2%の増加となっている。住宅ローン返済なし世帯は、329万円となっており、前年に比べ57万円、21.0%の増加となっている。

（図 - 4 - 1、表 - 4 - 1）

図Ⅲ-4-1 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）－2023年－



注) 1 ()内は、勤労者世帯に占める割合
2 []内は、世帯主の平均年齢

表Ⅲ－４－１ 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高の推移
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

年次	金額(万円)			対前年増減率(%)		
	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯	持家計	住宅ローン返済世帯	住宅ローン返済なし世帯
	貯蓄現在高					
2018年	1437	918	2021	-0.7	-4.0	3.0
2019	1474	969	2035	2.6	5.6	0.7
2020	1473	1017	1947	-0.1	5.0	-4.3
2021	1561	1057	2101	6.0	3.9	7.9
2022	1612	1132	2120	3.3	7.1	0.9
2023	1559	1137	2037	-3.3	0.4	-3.9
	負債現在高					
2018年	1016	1695	252	3.9	0.3	9.1
2019	1047	1724	294	3.1	1.7	16.7
2020	1036	1763	280	-1.1	2.3	-4.8
2021	1052	1793	259	1.5	1.7	-7.5
2022	1067	1818	272	1.4	1.4	5.0
2023	1199	1967	329	12.4	8.2	21.0
	住宅・土地のための負債					
2018年	950	1609	208	3.4	0.2	4.0
2019	984	1642	252	3.6	2.1	21.2
2020	971	1677	237	-1.3	2.1	-6.0
2021	985	1701	218	1.4	1.4	-8.0
2022	996	1718	232	1.1	1.0	6.4
2023	1125	1863	289	13.0	8.4	24.6
	世帯主の年齢(歳)					
2023年	51.2	46.5	56.5	-	-	-

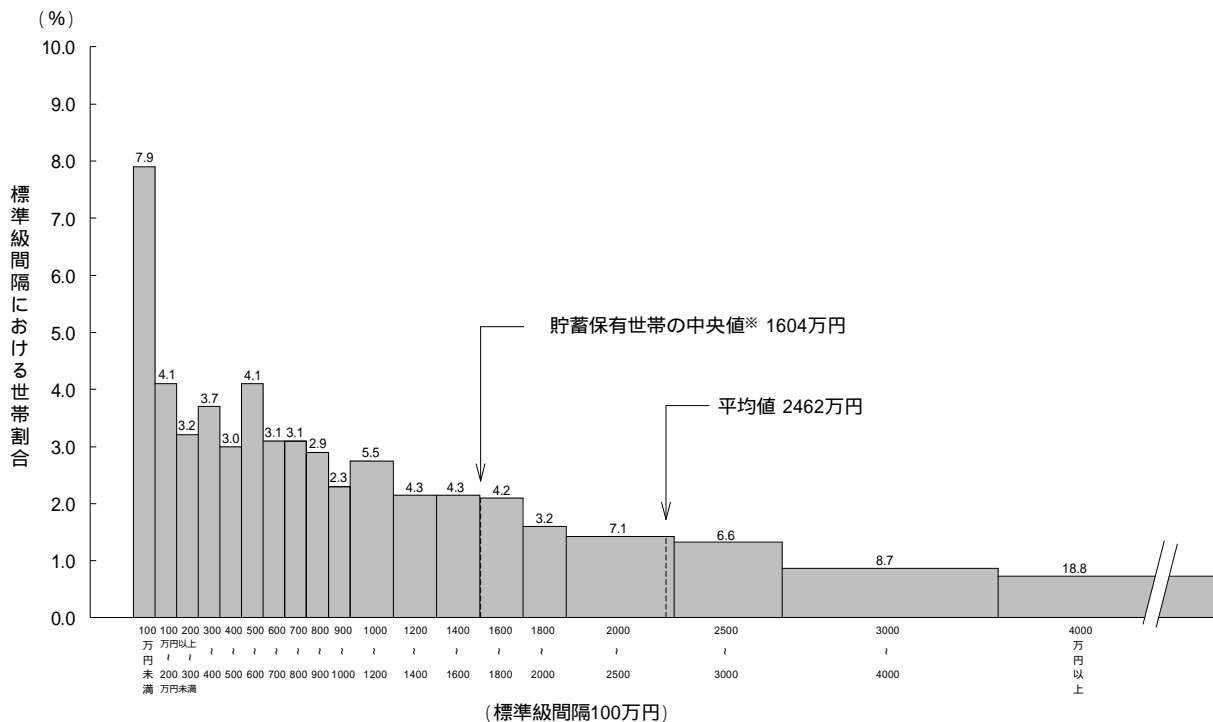
5 世帯主が65歳以上の世帯

(1) 世帯主が65歳以上の世帯では貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が約3分の1を占める

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の世帯（二人以上の世帯に占める割合42.3%）について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、二人以上の世帯全体と比べて、世帯主が65歳以上の世帯では、貯蓄現在高が高い階級にも広がった分布となっている。そのうち2500万円以上の世帯は、全体の34.1%と約3分の1を占めている。一方で、300万円未満の世帯は、全体の15.1%を占めている。

(図 - 1 - 3、図 - 5 - 1、表 - 5 - 1)

図Ⅲ-5-1 世帯主が65歳以上の世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）－2023年－



注) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いいため、縦軸目盛りとは一致しない。貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄「0」世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

表Ⅲ-5-1 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）－2023年－

世帯分布	平均	世帯割合 (%)		
		300万円未満	300万円以上～2500万円未満	2500万円以上
二人以上の世帯	100.0	20.4	54.8	24.8
うち世帯主が65歳以上の世帯	100.0	15.1	50.7	34.1
うち世帯主が65歳未満の世帯	100.0	24.3	57.8	18.0

(2) 世帯主が65歳以上の無職世帯の有価証券は480万円で前年に比べ20.0%の増加

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の無職世帯（二人以上の世帯に占める割合31.7%）の1世帯当たり貯蓄現在高は、2504万円で、前年に比べ145万円、6.1%の増加となり、4年連続の増加となっている。

貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が846万円と最も多く、次いで通貨性預貯金が754万円、有価証券が480万円、「生命保険など」が413万円、金融機関外が11万円となっている。また、前年と比べると、通貨性預貯金が55万円、7.9%の増加、有価証券が80万円、20.0%の増加などとなっている。

(図 - 5 - 2、表 - 5 - 2)

図Ⅲ-5-2 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

表Ⅲ－５－２ 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高	金融機関				金融機関外	
		通貨性預貯金	定期性預貯金	生命保険など	有価証券		
金額(万円)							
2018年	2233	2224	505	971	371	376	10
2019	2218	2210	543	941	369	357	8
2020	2292	2284	618	920	397	348	9
2021	2342	2338	623	924	403	388	4
2022	2359	2354	699	865	390	400	5
2023	2504	2493	754	846	413	480	11
構成比(%)							
2018年	100.0	99.6	22.6	43.5	16.6	16.8	0.4
2019	100.0	99.6	24.5	42.4	16.6	16.1	0.4
2020	100.0	99.7	27.0	40.1	17.3	15.2	0.4
2021	100.0	99.8	26.6	39.5	17.2	16.6	0.2
2022	100.0	99.8	29.6	36.7	16.5	17.0	0.2
2023	100.0	99.6	30.1	33.8	16.5	19.2	0.4
対前年増減率(%)							
2019年	-0.7	-0.6	7.5	-3.1	-0.5	-5.1	-20.0
2020	3.3	3.3	13.8	-2.2	7.6	-2.5	12.5
2021	2.2	2.4	0.8	0.4	1.5	11.5	-55.6
2022	0.7	0.7	12.2	-6.4	-3.2	3.1	25.0
2023	6.1	5.9	7.9	-2.2	5.9	20.0	120.0

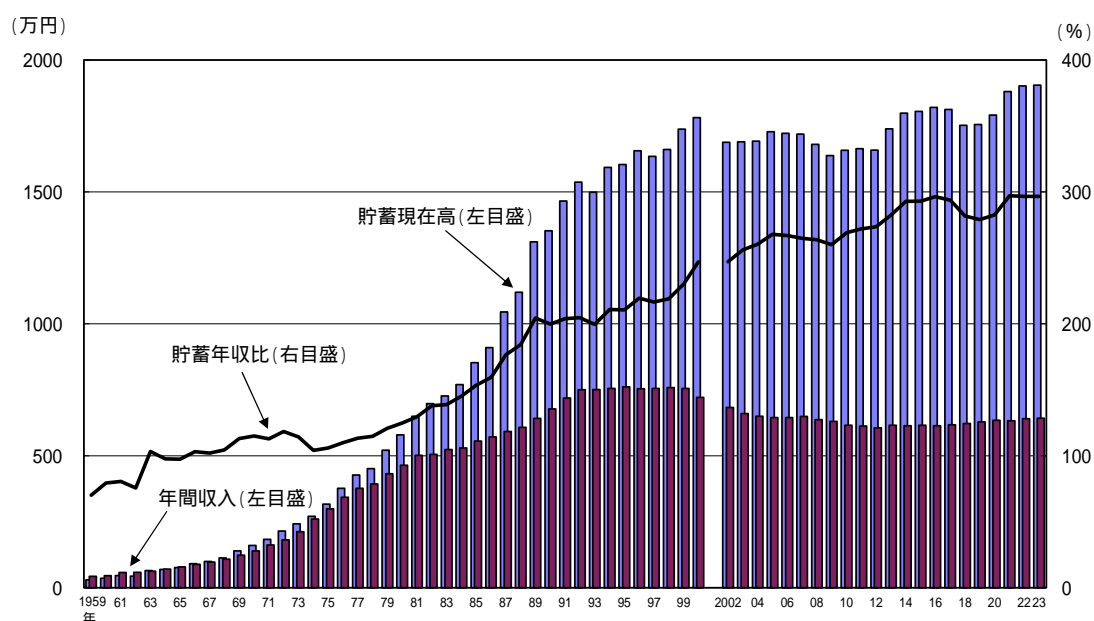
<参考 1 - 1> 長期時系列（二人以上の世帯の貯蓄の推移）

貯蓄現在高の年間収入に対する比は64年前の4.2倍

二人以上の世帯について1世帯当たり貯蓄現在高の最近の推移をみると、2017年及び2018年は減少となっていたが、2019年以降は5年連続で増加となった。2023年(1904万円)の水準は、64年前の1959年(30万円)の63.5倍となっている。また、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）をみると、2023年は、296.6%と、1959年(70.0%)の4.2倍となっている。

（図、<参考 1 - 2>表）

図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）



注) 2000年以前は、「貯蓄動向調査」結果による。数値については、次ページ参照 ⇨

貯蓄動向調査：家計調査の附帯調査として2000年まで毎年12月31日現在で実施。
 家計調査とは、調査時期、調査対象世帯数等が異なる。
 貯蓄・負債編としての調査は、1年の準備期間の後、2002年から実施

<参考1-2> 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄 年収入 比 (1)/(2) (%)
			貯蓄 現在高 (%)	年間 収入 (%)	
1959年	30.23	43.18	-	-	70.0
1960	35.90	45.31	18.8	4.9	79.2
1961	46.21	57.28	28.7	26.4	80.7
1962	44.09	58.32	-4.6	1.8	75.6
1963	64.65	62.57	46.6	7.3	103.3
1964	68.90	70.59	6.6	12.8	97.6
1965	76.36	78.39	10.8	11.0	97.4
1966	90.99	88.19	19.2	12.5	103.2
1967	99.47	97.58	9.3	10.6	101.9
1968	112.62	107.79	13.2	10.5	104.5
1969	139.45	123.49	23.8	14.6	112.9
1970	160.27	139.35	14.9	12.8	115.0
1971	182.91	162.12	14.1	16.3	112.8
1972	214.98	181.60	17.5	12.0	118.4
1973	242.60	212.35	12.8	16.9	114.2
1974	270.42	259.78	11.5	22.3	104.1
1975	316.8	299.0	17.2	15.1	106.0
1976	376.8	342.8	18.9	14.6	109.9
1977	427.1	376.9	13.3	9.9	113.3
1978	451.1	393.2	5.6	4.3	114.7
1979	521.2	431.4	15.5	9.7	120.8
1980	579.4	464.3	11.2	7.6	124.8
1981	650.0	501.7	12.2	8.1	129.6
1982	697.2	505.1	7.3	0.7	138.0
1983	726.3	523.5	4.2	3.6	138.7
1984	769.7	529.7	6.0	1.2	145.3
1985	852.8	555.7	10.8	4.9	153.5
1986	909.5	571.0	6.6	2.8	159.3
1987	1045.2	592.3	14.9	3.7	176.5
1988	1119.8	607.5	7.1	2.6	184.3
1989	1311.0	641.3	17.1	5.6	204.4
1990	1353.0	677.3	3.2	5.6	199.8
1991	1465.4	718.9	8.3	6.1	203.8
1992	1536.8	750.5	4.9	4.4	204.8
1993	1498.2	751.0	-2.5	0.1	199.5
1994	1592.1	755.2	6.3	0.6	210.8
1995	1603.5	761.8	0.7	0.9	210.5
1996	1655.3	754.5	3.2	-1.0	219.4
1997	1634.5	754.8	-1.3	0.0	216.5
1998	1660.7	758.4	1.6	0.5	219.0
1999	1737.7	755.0	4.6	-0.4	230.2
2000	1781.2	721.3	2.5	-4.5	246.9
2001	-	-	-	-	-
2002	1688	683	-	-	247.1
2003	1690	660	0.1	-3.4	256.1
2004	1692	650	0.1	-1.5	260.3
2005	1728	645	2.1	-0.8	267.9
2006	1722	645	-0.3	0.0	267.0
2007	1719	649	-0.2	0.6	264.9
2008	1680	637	-2.3	-1.8	263.7
2009	1638	630	-2.5	-1.1	260.0
2010	1657	616	1.2	-2.2	269.0
2011	1664	612	0.4	-0.6	271.9
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8
2015	1805	616	0.4	0.3	293.0
2016	1820	614	0.8	-0.3	296.4
2017	1812	617	-0.4	0.5	293.7
2018	1752	622	-3.3	0.8	281.7
2019	1755	629	0.2	1.1	279.0
2020	1791	634	2.1	0.8	282.5
2021	1880	633	5.0	-0.2	297.0
2022	1901	641	1.1	1.3	296.6
2023	1904	642	0.2	0.2	296.6

貯蓄動向調査の結果

家計調査(貯蓄・負債編)の結果

注) 1959年から2000年までは貯蓄動向調査の結果であり、2002年以降は家計調査(貯蓄・負債編)の結果である。

<参考2> 2023年の貯蓄・負債をめぐる主な動き

貯蓄・負債関係

- ・ 経団連がまとめた、2023年春季労使交渉の大企業の賃上げ幅は1万3362円、賃上げ率は3.99%と、それぞれ5800円、1.72ポイントの増加。増加幅は、共に、現行の集計方法となった1976年以降最高（8月）
- ・ 全国加重平均の最低賃金は、43円引き上げられ、1004円に改定。初めて1000円を超え、比較可能な2002年度以降最大の引上げ幅（10月）
- ・ 「年収の壁」への当面の対応として、厚生年金や健康保険の加入に併せて、手取り収入を減らさない取組を実施する企業に対し支援するほか、事業主の証明による被扶養者認定の円滑化を実施（10月）
- ・ 日経平均株価は、一時3万3853円と、1990年3月以来約33年ぶりの水準で、バブル崩壊後の高値を更新（11月）
- ・ 個人型確定拠出年金「iDeCo」の2023年12月末時点の加入者総数は、前年同月比14.0%の増加（12月）
- ・ 少額投資非課税制度（NISA）のうち「つみたてNISA」の2023年12月末時点（速報値）の口座数は、約974万と、前年同月比34.3%の増加、買付額は、約4兆5820億円と60.7%の増加（12月）
- ・ 資金循環統計によると、2023年12月末時点の個人（家計部門）の金融資産残高は、2141兆円と、前年同期比5.1%の増加となり、過去最高を更新（12月）
- ・ 投資信託協会がまとめた、2023年12月末の公募投信残高は、196兆9070億円となり、過去最高を更新。また、上場投信（ETF）を除いた残高は106兆4062億円となり、過去最高を更新（12月）
- ・ 不動産経済研究所がまとめた、2023年の新築マンションの平均価格は、東京23区が前年比39.4%増加し、1億1483万円と1974年以降で初めて1億円を突破した。（12月）
- ・ 2024年1月時点の住宅地の公示地価は、3年連続の上昇
- ・ 2023年の新設住宅着工戸数は、81万9623戸と、前年比4.6%の減少となり、3年ぶりの減少

その他

- ・ マスクの着用は、個人の判断が基本に（3月）
- ・ 車いすの部男子シングルスで初めて四大大会、パラリンピックを全制覇したテニスの国枝慎吾氏が、国民栄誉賞を受賞（3月）
- ・ ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で日本が3大会ぶりの優勝。大谷翔平選手がMVPに（3月）
- ・ こども家庭庁が発足（4月）
- ・ 改正道路交通法の施行により、全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化（4月）
- ・ 東京ディズニーリゾートが開業40周年（4月）。最も混雑する時期の大人1日券が初の1万円超（10月）
- ・ 石川県能登地方を震源とする地震が発生。石川県で震度6強の揺れを観測（5月）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、いわゆる2類相当から5類感染症に（5月）
- ・ G7広島サミット開催（5月）
- ・ 台風13号の影響により関東甲信地方や東北太平洋側で大雨。福島県、茨城県、東京都、千葉県で1時間降水量が観測史上1位の値を更新（9月）
- ・ 10月の訪日外国人旅行者数は、2019年同月比0.8%増（推計値）で、新型コロナウイルス感染症拡大後初めて2019年の水準超（10月）
- ・ 将棋の藤井聡太棋士が、史上初の八冠（10月）
- ・ プロ野球の日本シリーズに阪神タイガースとオリックス・バファローズが出場。59年ぶりに関西の球団同士が対決し、阪神タイガースが38年ぶり2度目の優勝（10月及び11月）
- ・ G7は、生成AIの開発者から利用者までを含む世界初の包括ルールを承認（12月）
- ・ 1年を通じた日本の平均気温は、統計を開始した1898年以降最高。最も暑い年に

図 表 目 次

([] 内はe-Statに掲載している詳細結果表の番号)

- 図 - 1 - 1 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1表]
- 表 - 1 - 1 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1表、8 - 30表]
- 図 - 1 - 2 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1表]
- 表 - 1 - 2 貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1表、8 - 30表]
- 図 - 1 - 3 貯蓄現在高階級別世帯分布
[8 - 1表、8 - 30表]
- 図 - 2 - 1 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1表]
- 表 - 2 - 1 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1表]
- 図 - 2 - 2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1表]
- 表 - 2 - 2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1表]
- 図 - 1 - 1 負債現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1表]
- 表 - 1 - 1 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 1表、8 - 22表、8 - 31表]
- 図 - 1 - 2 負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1表]
- 表 - 1 - 2 負債現在高、負債保有世帯の負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)
[8 - 1表、8 - 22表、8 - 31表]
- 図 - 1 - 3 負債現在高階級別世帯分布
[8 - 1表、8 - 31表]
- 表 - 2 - 1 負債の種類別負債現在高
[8 - 1表、8 - 31表]
- 図 - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合 (二人以上の世帯)
[8 - 5表、8 - 24表]
- 表 - 1 - 1 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移 (二人以上の世帯)
[8 - 5表、8 - 24表]
- 図 - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯のうち負債保有世帯)
[8 - 24表]
- 表 - 1 - 2 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高の推移 (二人以上の世帯のうち負債保有世帯)
[8 - 24表]
- 図 - 2 - 1 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯)
[8 - 3表]

- 図 - 2 - 2 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）
[8 - 3表]
- 表 - 2 - 1 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高(二人以上の世帯)
[8 - 3表]
- 図 - 2 - 3 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8 - 3表]
- 図 - 2 - 4 年間収入五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8 - 3表]
- 表 - 2 - 2 年間収入五分位階級、貯蓄・負債の種類別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8 - 3表]
- 図 - 3 - 1 貯蓄現在高五分位階級別貯蓄・負債現在高（二人以上の世帯）
[8 - 13表]
- 図 - 3 - 2 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）
[8 - 13表]
- 表 - 3 - 1 貯蓄現在高五分位階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）
[8 - 13表]
- 図 - 4 - 1 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8 - 6表]
- 表 - 4 - 1 持家世帯の住宅ローンの有無別貯蓄・負債現在高の推移
（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）
[8 - 6表]
- 図 - 5 - 1 世帯主が65歳以上の世帯の貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）
[8 - 10表、8 - 30表]
- 表 - 5 - 1 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）
[8 - 30表]
- 図 - 5 - 2 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）
[8 - 10表]
- 表 - 5 - 2 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）
[8 - 10表]
- 参考 1 - 1 図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）
[8 - 1表]
- 参考 1 - 2 表 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）
[8 - 1表]